

マスクの増産対応

日本政府は輸入マスクと合わせ、月6億枚供給できるように対応

専門でない企業もマスク生産に参入

- **SHARP** 家電製品企業。3月下旬に「MA-1050」を発売。通気性、品質の高評価を受け、倍率100倍以上の人気を誇る。
- **RaiseLab** アパレル企業。4月に中国の生産工場と連携し、数量限定50万枚を生産。
- **ヤマシンフィルタ** マスクフィルタ企業。5月にマスク自体の販売を開始。薄さや通気性に優れ、好評である。

4. 政府はどう介入すべきだったか？

- ・ 最適な分配方法
- ・ 法整備の壁

混乱の原因

- ①マスクの供給量不足
- ②最適化されていない資源配分

国内の**急激な需要増加**への対応が求められた

急な増産は不可能



流通するマスク量は限られる

限られた量のマスクをどう最適に配分させるかが課題

①マスクの供給量不足

→急激な需要増加が原因。増産が最もな解決方法であるが、すぐには不可能。
長期的な解決方法であるため、初期の混乱の解決方法にはならない。

②最適化されていない資源配分

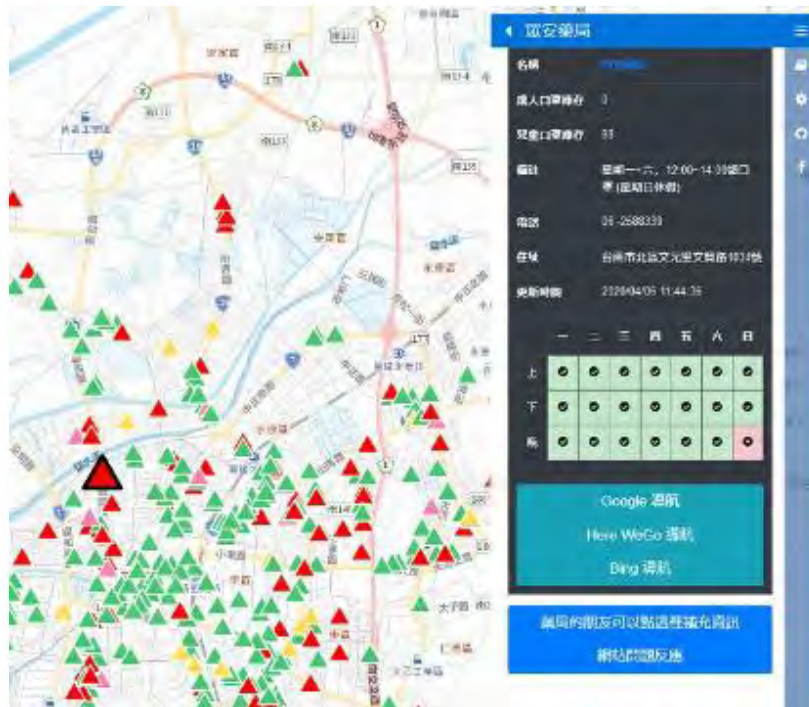
→消費者の動きが原因。問題行動を排除し、人々をコントロールすればよい。
制度を整えるなどで短期的な解決が可能。

消費者のコントロールが初期の混乱の解決として有効

台湾でのマスク供給方法

台湾での事例

政府がマスクを買い占め、IT技術を使って分配し、混乱を回避した



薬局のマスクの在庫状況を
リアルタイムでマップで確認可能

1人週2枚に制限
価格も2枚10台湾ドル(約36円)に定めた

購入には保険証の提示が必要
番号によって買える曜日を制限